

2011年11月21日のハインリヒ・フォン・クライスト没後200

周年、ワールドワイド・リーディング朗読参加への呼びかけ

ベルリン国際文学祭 (Das internationale literaturfestival berlin (ilb)) とハインリヒ・フォン・クライスト協会 (Heinrich-von-Kleist-Gesellschaft) は、世界中の文化施設・団体、学校、そして関心をお持ちの方々すべてに、2011年11月21日におこなわれるドイツの作家ハインリヒ・クライストの作品のワールドワイド・リーディングへの朗読参加を呼びかけます。この日、クライスト没後200周年を迎えるのです。

ハインリヒ・フォン・クライストは18世紀から19世紀への変り目、ドイツを動きのない待合室だと感じた危機感の持ち主で、構想に満ちあふれた人物でした。クライストは文学のみならず、プロイセン王国の軍・経済改革案、「対峙型」教育プログラムによる「反面教師学校」の構想、潜水艦や「大砲郵便輸送」の発案、政治姿勢をカモフラージュする首都大衆紙の発行といったあらゆる社会領域の未来志向の実験により、当時の人々を覚醒しようとしたのです。過激な立場をとる人間、劇作家、小説家として、同時代人には理解されなかったクライストは、今だからこそ現代性を得るように思えるのです。彼はドイツにおける政治と社会の変革期に生き、その人生は、マルク地方の貴族の家に生まれながらも、つねに不安定な状態にありました。クライストは恒常的に危機的体験をし、そこから自分の構想を紡ぎだし、その人生計画はつねに変化を遂げていきました。彼は軍人生活を終えたあと、自分の人生の目標を学者、官僚、父親、農民、出版業者あるいは編集者と何度も変えていき、最後には生前は認められることのなかった作家の道を目指したのです。

クライスト没後200周年にあたる2011年11月21日は、当時と現在の危機、批判、改革案の脈絡について語る絶好の機会です。そしてなによりも11月21日は、彼の生きざま、死、作品を世界中で想起する日でもあります。だからこそ、このハインリヒ・フォン・クライストの命日に、その手紙や著作が朗読されるべきなのです。

このワールドワイド・リーディングはすでに恒例となったイベントで、イラク戦争開戦の3周年目にはじまりました。この政治の偽りで塗り固められた侵攻の3年目にあたる2006年3月20日、ベルリン国際文学祭とペーター・ヴァイス芸術・政治基金が、エリオット・ワインバーガーの「What I Heard about Iraq」を世界中で朗読するよう呼びかけたのです。それに引きつづき、アンナ・ポリトコフスカヤ殺害事件、北京オリンピック、ロバート・ムガベ政権反対、マフムード・ダルウィーシュ追悼、イランの反体制民主派支援をテーマに世界中で朗読をおこない、毎年、五大洲すべてのラジオ局、テレビ局を含む百に及ぶ施設・団体が参加、あるいはこのワールドワイド・リーディングについて報道してきました。

世界中で朗読されるべきテキストは、ドイツ語、英語、フランス語、日本語、スペイン語、ハンガリー語で用意されています。11月21日のワールドワイド・リーディングに参加なされたい施設・団体、個人の方は、ご連絡くださるようお願いいたします。朗読用テキスト選集は、参加される方にメールでお送りします。当方のメール・アドレスは次のとおりです。

worldwiderreading@heinrich-von-kleist.org



PROF. DR. GÜNTER BLAMBERGER
Präsident der Heinrich-von-Kleist Gesellschaft



ULRICH SCHREIBER
Leiter des internationalen literaturfestivals berlin

